

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和2年6月16日	
愛知県知事殿	
提出者	
住 所 愛知県海部郡大治町大字西條西之川25番地	
氏 名 アイカテック建材株式会社名古屋工場	
工場長 佐藤 隆彦	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 052-444-2671	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	アイカテック建材株式会社 名古屋工場
事業場の所在地	愛知県海部郡大治町大字西條西之川25番地
計画期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	21：窯業・土石製品製造業
②事業の規模	出荷数量 2,475 千枚
③従業員数	64 名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・廃プラスチック類→中間処理業者に委託して粉碎・圧縮後、埋立処分 ・木くず→中間処理業者に委託して粉碎後、燃料化 ・ガラス・陶磁器くず→中間処理業者に委託して、粉碎後、埋立処分 一部肥料原料等として再資源化 ・汚泥→中間処理業者に委託して脱水後、埋立処分 ・廃油→中間処理業者に委託して油水分離後、燃料化

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 本社環境安全推進室 環境安全推進室長(廃棄物管理責任者) 名古屋工場工場長 総務課(廃棄物管理主任者) 工場廃棄物管理業務実務担当者			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2019年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	別紙1のとおり
	排 出 量	同上	同上
	(これまでに実施した取組) ・ ガラス・陶磁器くず 製品歩留まりを改善し排出量を抑制する。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	別紙1のとおり
	排 出 量	同上	同上
	(今後実施する予定の取組) ・ ガラス・陶磁器くず 製品歩留まりを改善し排出量を抑制する。 一部肥料原料他原料として再資源化 ・ その他の廃棄物 製品歩留まりを改善することで低減させる。また、木製パレットに 関しては修理を増やすことで廃棄物の低減を図る。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラスチック類、木くず、ガラス・陶磁器くず、汚泥、廃油は それぞれ分別し、保管している。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラスチック類の内、再資源と産廃とを区分けする。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2019年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・実施する予定はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2019年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・実施する予定はない。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2019年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） ・実施する予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2019年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	別紙2のとおり
	全 処 理 委 託 量	同上	同上
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	同上	同上
	再生利用業者への処 理 委 託 量	同上	同上
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	同上	同上
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	同上	同上
	（これまでに実施した取組）		

(第5面)

	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	別紙2のとおり
		全処理委託量	同上	同上
		優良認定処理業者への 処理委託量	同上	同上
		再生利用業者への 処理委託量	同上	同上
		認定熱回収業者への 処理委託量	同上	同上
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	同上	同上
		(今後実施する予定の取組) ・製品歩留まりを改善し、各産業廃棄物の発生量を低減する。		
	※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(別紙1)産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	2019年度実績	産業廃棄物の種類	廃プラ	木くず	ガラス・陶磁器	汚泥
		排出量(トン)	36.75	94.24	3,360.86	188.82
②計画	2020年度目標	産業廃棄物の種類	廃プラ	木くず	ガラス・陶磁器	汚泥
		排出量(トン)	35.60	91.40	2,705.50	183.00

(別紙2)産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	2019年度実績	産業廃棄物の種類	廃プラ	木くず	ガラス・陶磁器	汚泥
		全処理委託量(トン)	36.75	94.24	3,360.86	188.82
		優良認定処理業者への 処理委託量(トン)	0.00	16.57	3,272.86	17.47
		再生利用業者への 処理委託量(トン)	0.00	77.67	88.00	0.00
		認定熱回収業者への 処理委託量(トン)	0.00	0.00	0.00	0.00
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量(トン)	0.00	0.00	0.00	0.00
②計画	2020年度目標	産業廃棄物の種類	廃プラ	木くず	ガラス・陶磁器	汚泥
		全処理委託量(トン)	35.60	91.40	2,705.50	183.00
		優良認定処理業者への 処理委託量(トン)	0.00	0.00	2,084.20	22.40
		再生利用業者への 処理委託量(トン)	0.00	91.40	770.00	0.00
		認定熱回収業者への 処理委託量(トン)	0.00	0.00	0.00	0.00
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量(トン)	0.00	0.00	0.00	0.00